

&gt;&gt;48

# 透析医療の現場を訪ねて FROM B.P. ROOM

医療法人援腎会

【すずきクリニック（福島県郡山市）】

【あさか野泌尿器透析クリニック（福島県郡山市）】

福島県郡山市にある医療法人援腎会 すずきクリニック・あさか野泌尿器透析クリニックは開院当初から長時間透析の有用性に着目、5時間以上の透析時間、高血流透析、on-line HDF を組み合わせた治療に積極的に取り組んでいる。クリニックの概要について伺った。

## Interview

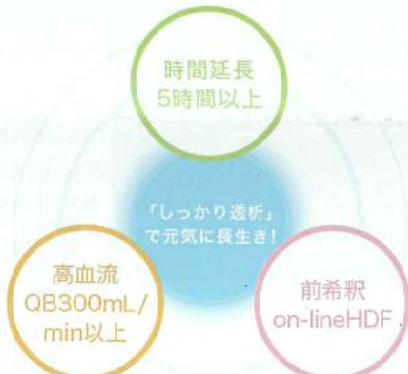
鈴木一裕 先生

KAZUHIRO SUZUKI

医療法人援腎会 すずきクリニック  
院長

## すずきクリニックの特徴

当クリニックは人工透析と泌尿器科の専門クリニックとして2008年に開院しました。当クリニックは、常に透析患者さんが、「元気で長生きが出来る」、「透析中は楽に過ごすことが出来る」ことを目指し、「5時間



ゆったりとした個人用の透析スペースは、明るくナチュラルな木目調としプライバシーや快適性に配慮しました。長い透析時間中も自宅で治療をしているようにリラックスした気分で過ごせるよう配慮している。

↓すずきクリニック  
個室透析センター

以上の透析時間」、「血流量300mL/min以上の高血流透析」、「前希釈on-line HDF」を組み合わせた透析治療に力を入れており、我々はこれを「しっかり透析」と呼んでいます。開院当初は、実際に透析時間の延長を患者さんに勧めても希望される方は少なかったのですが、我々は、合併症の減少、血圧変動の改善、透析中の愁訴の軽減、予後改善といった長時間透析によって得られるメリットを粘り強く説明してきました。今では、時間延長の意味を理解し体感した方が多くなり、透析患者さん102名中、透析時間5時間以上、血流量300mL/min以上の方は70名に達しています。開院9年目にして患者さんの平均透析時間は5時間(5.1時間)を越えました。さらに、週4回透析と6時間透析の患者さんが援腎会で19名(すずきクリニックが15名、あさか野泌尿器透析クリニックで4名)になりました。しかも、そのほとんどが患者さんのご希望による施行です。



↑すずきクリニックスタッフの皆さん

## 個室透析センターを新設

2012年には、出来るだけ多くの患者さんに5時間透析を受けてもらいたいとの目的から個室透析センターを新設しました。個室透析センターでの透析は自立しており、透析中の血圧が安定している5時間以上の透析であれば、透析中の血圧低下もあまり認めず、見守りについて心配の少ない透析が可能ということが大きな理由です。患者さんも他の患者さんの目をあまり気にせずにリラックスして過ごせます。現在30～40名の患者さんが個室透析を使用しています。

「しっかり透析」を支える  
栄養療法・運動療法

我々は栄養管理と運動療法にも力を入れています。栄養管理については、管理栄養士(2名)が定期的にベッドサイドに赴き、栄養指導を行っているほか、担当看護師と管理栄養士が患者さんのご自宅を訪問し、家庭環境の調査を含めた指導を行うことにも取り組み始めました。

運動療法に関しては、月2回運動療法士による運動教室を開催し、透析中のエルゴメーターやトレーニングバンド、バランスボールを使った運動、透析前のラジオ体操等を日常的に行ってています。また、昨年、当クリニックの浜田幸子看護師が、健康運動実践指導者の資格を取得したので、ラウンジ(休憩・待合室)で運動療法に関するDVDを放映しながら運動指導を行う等、より運動生理学や医学的知識に基づいた運動プログラムの提供にも取り組んでいます。



↑多目的ホールでの座ってできる肩こり対策運動指導の様子

## 医療法人援腎会 すずきクリニック●病院概要

所在地	〒963-8071 福島県郡山市富久山町久保田字伊賀河原12番地
理事長・院長	鈴木一裕
開設	2008年5月
診療科	人工透析、泌尿器科、内科
透析ベッド数	一般透析30床 個室透析21床
透析患者数	102名



## 医療法人援腎会 あさか野泌尿器透析クリニック●病院概要

所在地	〒963-0111 福島県郡山市安積町荒井字太夫場加47-5
院長	新田浩司
開設	2016年5月
診療科	人工透析、泌尿器科、腎臓内科
透析ベッド数	33床
透析患者数	20名



## 【医療法人援腎会 すずきクリニック・あさか野泌尿器透析クリニック(福島県郡山市)】

### 合併症対策

高齢透析患者を中心とした合併症対策ということでは、前述の食事指導や運動療法に加え、日々の診療においては、毎日行う医師の透析回診の他に、月1回は診察室で患者さんと向き合って、超音波検査を中心とした定期検査結果の説明や生活指導を行っています。漫然と透析を行っていくのではなく、常に問題点を示し改善してもらうことで患者さんが元気でいられることを目指しています。

鈴木翔太 透析室長(臨床工学技士)



当クリニックでは、医師2名、臨床工学技士7名、看護師12名、臨床検査技師2名、管理栄養士2名、看護助手6名、事務職4名が勤務しています。

患者担当制をとっています。一人の看護師、技士が6名ほどの患者さんを担当します。患者さんとの緊密なコミュニケーションの構築を目標に、患者さんの訴えや様々な状況を記入する患者さん個々の担当カードを作成しています。それをもとに患者さんの状況把握に努め、医師とスタッフとで治療方針を検討します。患者さんをよく診るために、愛Podシートの活用、管理栄養士による栄養評価、ポータブルエコーによる穿刺やVA検査等を実施し、医師、看護師、管理栄養士、臨床工学技士によるカンファレンスを週1回行い、医師は患者さんとの個別面談を月1回行っています。また、フットケアも行っており、糖尿病の患者さんであればより細かく、定期的に看護師が中心となってフットチェック等を行っています。

治療に際しては、家庭での血圧の把握が重要なことで、患者さんには血圧記録表をお渡しし、ご自宅での血圧測定値(1日3回測定)を記入していただい

スタッフから一言

### 超音波ガイド下シャント拡張術の導入

シャント管理における特徴として、2014年よりPTAについては、レントゲン室で造影して行う方法から、手術室での超音波ガイド下シャント拡張術に変更しました。本法については、福島県を含む東北地方ではおそらく我々が最初の実施施設だと思います。病変部直近に麻酔が可能であり、エコーで視認しながら局所麻酔剤を投与できるので、バルーン拡張の際の痛みは最小限に抑えられ、患者さんには非常に好

評で全例で行っております。年間約50件のPTAを行っており、2016年度は、シャント閉塞は1例のみでした。詰まらない一つの大きな要因として、やはり高血流の透析を行っていることから、脱血不良がいち早く発見でき、早めの対処が可能なこともあります。

当クリニックの今後の目標としては、眺めの良い2階に患者さん用のレストランを作り、トレーニングマシーンも置いて、しっかり透析の後お腹がすいたら美味しい透析食を気持ち良く味わっていただき、しっかり運動もできる、患者さんのためのより充実した施設にできたらと思っています。

ています。患者さんは非常に協力的で、常に9割以上の患者さんに提出いただいている。これも担当制でのコミュニケーションづくりが奏功しているからかもしれません。

### 透析治療について

透析治療については、前希釈on-line HDF主体の透析で、当クリニックの特徴でもある高血流を積極的に確保するようにしています。前希釈on-line HDFは、等張性置換液が補充されることで血漿浸透圧の低下が是正され、透析中の血圧は維持され透析後のだるさも軽減でき、無理なく血流量を上げるのに適していると思います。

一方で、高血流による過剰な除去量の問題については、アミノ酸やAlb漏出量が多くなる場合、血流やフィルタを変更し、低栄養の患者さんに対しては管理栄養士による栄養指導を強化しています。高齢者でも初めから透析量を抑えることをせず、しっかりと透析量を確保することで透析不足に起因する合併症を発症しないよう透析条件を設定しています。

### 透析液清浄化について

透析液の清浄化については、日本透析医学会のガイドラインの2011年版エンドトキシン捕捉フィルタ

(ETRF)の管理基準をクリアできるよう努めており、毎月全ての透析機器の測定を行い、その測定結果はホームページで随時公表しているので、常に緊張感を持って業務に当たっています。

長時間、高血流透析を続けると、栄養摂取量が減少した場合、栄養不良に繋がりかねず継続管理は結構大変です。日頃からスタッフの注意深い観察で、患者さんの変化に速やかに対応する必要があります。そのためにも日々患者さんの声に耳を傾け、一人ひとりに合った透析方法の提案をするなどして、「しっかり透析」をしっかりサポートしていきたいと考えています。



定期カンファレンス：患者担当制をとっているので定期カンファレンスでの確実な情報共有に努めている。

透析室の特徴としては、透析コンソールについて、東レ、ニプロ、日機装と3社の機器を揃えていることが挙げられます。そのため、各社の機器によって機能が異なる部分があることに鑑み、各機器の良い特徴を活かしたうえで、個々の患者さんの透析条件にできるだけ合った透析方法を選択し、施行することができます。例えば、BV計搭載機器も選択でき、I-HDFであれば補液の調節が比較的容易なコンソールを用いるといった選択ができます。もちろん個人機もあるのでさらに細かい対応も可能と自信しています。

開院間もないということで透析患者さんは現在20名ほどですが、ほとんどの患者さんが5時間以上の透析を行っています。週4回透析と6時間透析の患者さんも4名ほどおりますので、「しっかり透析」の実践ということでは順調なスタートが切れているのではないかと思います。

当クリニックでは看護師4名、臨床工学技士2名、臨床検査技師1名が勤務しています。患者さんのケアということでは、すずきクリニックに準じた業務体制をとっています。すずきクリニック常勤の管理栄養士による栄養指導や、臨床検査技

師による各種エコー検査もしっかりと実施しています。

両クリニックともに送迎サービスを実施していますが、皆さん5時間透析を受けていますので、透析後に血圧低下で送迎バスに乗れない方はいらっしゃいません。

今後も患者さんのご希望に出来るだけ添えるよう、さらに最善の治療法が選択できるように分かりやすく説明し、なんでも相談できる関係を築いていきたいと考えております。



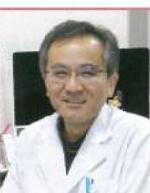
あさか野泌尿器透析クリニックのスタッフの皆さん

### Interview

#### 新田浩司先生

KOJI NITTA

医療法人援腎会 あさか野泌尿器透析クリニック  
院長



#### あさか野泌尿器透析クリニックの特徴

当クリニックは、援腎会の新しい泌尿器・透析クリニックとして2016年5月に開院しました。すずきクリニックが郡山市の中北部を診療圏としているのに対し、当クリニックは市南部の泌尿器科・透析医療の充実に貢献しつつ、さらに隣接する須賀川市等をカバーしていくべきと思っています。

私は開院と同時に院長に就任いたしました。入院治療を除き、総合病院泌尿器科外来で行っている治療と同レベルの治療は提供出来るよう、更に、総合病院では出来ない患者さんのニーズに合うきめ細かい治療も提供出来るように心がけております。

2017年1月には新たに透析室を開設し、本格的な透析治療をスタートさせました。すずきクリニックと同様、透析治療の基本は「しっかり透析」です。患者さんにおいては、しっかり透析、十分な栄養、運動ができるだけ長く元気に過ごしていただくことが目標です。